

大分芹川ダムでの水源地クリーン活動

大分市管工事協同組合青年部会は、全管連青年部協議会の仲間となって初めて、エコ倶楽部探検隊の活動に参加しました。当青年部会は江藤会長を中心として、平成17年度より総務・親睦・社会奉仕活動・全管連・視察研修と活動内容別に五つの委員会に分かれています。

今回、水源地のクリーン活動は全管連委員会が中心となり、計画・調査・実施を行いました。当初、活動場所の候補として、浄水場取水口付近、大分川河川敷、大分芹川ダムの三つが考えられ、それぞれ現地調査及び管轄部署への調整を試みました。その後青年部全員協議会で検討した結果、芹川ダムでのクリーン活動が決定となり、細部実施計画を当委員会が決めました。

クリーン活動当日は天気にも恵まれ、はしご・清掃用具等をダンプに積載し、当初の目的地である芹川ダムに向けて出発しました。出発から約1時間でダムに到着し、比較的ゴミの多いダム北側と南側の二班に分かれ、その班もさらに収集・運搬・分別と役割を分担し作業に取り掛かりました。現場は傾斜地であったため、足元に十分気を付けて作業を行いました。若手ハッスル組のなかには、イカダに乗ってダムに浮いたゴミを取る頼もしい者もいましたが、全員ケガもなく無事作業終了しました。また、各人が積極的に作業を行なったため、予定時間より早く終わることができました。



クリーン活動終了後、参加者全員で写真撮影

大分市管工事協同組合青年部会

- 担当役員 尾形直樹
- 実施日 平成17年11月19日(土)
- 参加者 22名【青年部会21名 事務局1名】

収集したゴミは空き瓶・空き缶・プラスチック製の容器等いろいろありました。清掃を終えて全員で写真撮影を行なったときは、皆達成感と満足感あふれる顔をしていました。水に携わるものとして、きれいな水の大切さを感じ、その水源地を守るという使命感を体で感じていました。人が生活していく上では、水は必要不可欠であり、その水を確保する為にはまず水事業に携わる私たち青年部会員一人ひとりがその重要性和責務を再認識しなければなりません。

クリーン活動が終わった後、一行は途中で昼食を取り次の目的地である八丁原発所に向かいました。そこを見学地を選んだのは、きれいな水にはきれいな空気が必要であり、そのきれいな水を汚さないという発想からでした。まさに八丁原発所は、化石燃料のように二酸化炭素も出さず、冷却水が汚染される心配もないクリーンエネルギーでした。見学地は日本で一番大きい地熱発電所で、化学燃料をまったく使わず地下から取り出した蒸気を利用するクリーンな発電所でした。仕組みは、地下の岩盤の中に閉じ込められマグマの熱で高い温度になっている地下水を、蒸気井で取り出し、タービンを回して発電するというものでした。つまり火力発電所のボイラーの役割を地球が果たしているということです。このように、地熱発電所は、地熱という自然の力を利用した発電方法で国内の資源を有効に活用しているのです。この見学をとおして我が青年部会は、「エコ」を広い意味で考えた場合、エネルギー利用という観点からも環境との調和は大切であり、きれいな水資源を守るという点からも、クリーンエネルギーが必要不可欠であると痛感しました。

最後に、11月中旬という会員各社多忙の中、エコ倶楽部活動に理解を示し、またその代表者方々の理解、職場の方々の協力があって本活動の成功につながったと感謝しています。また、ダム管理事務所の方々や、八丁原発所の方々の協力で我々が貴重な経験を持つことが出来たと思います。

大分市青年部は、平成17年8月7日(日)親会の傘下で「全市いっせいゴミ拾い大作戦」に参加し、大分市民参加人数146,679人という記録をつくりました。それは、現在ギネス記録更新の申請中です。このときも、江藤宏行青年部会長・大仲晴光奉仕活動委員長が中心となり、参加者の受付業務、車両の誘導等それぞれの勤務で活躍しました。



ゴミを土のう袋につめてロープで吊り上げました



収集したゴミは、受け入れ種類ごとに分別



クリーンエネルギーである地熱発電所を見学